

東北地方太平洋沖地震に伴う津波波形データが 八戸港鮫検潮所等から回収されました

■去る3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震直後に停電となったため欠測とされていた津波データが、機器類の不具合の点検過程の中で、この度、保存データから波形記録の回収に成功しましたので、お知らせします。

なお、検潮所建屋は損傷がないもののシステムは未だ、完全復旧しておらず、停電も解消されていません。

■検潮記録に詳しい独立行政法人「港湾空港技術研究所（横須賀市）」の研究者に見て頂いたところ、大変貴重なデータであることが証明されました。

■検潮記録のおおまかな特徴は以下のとおりです（別紙に波形データ）。なお今後、さらに多数の専門家にもご覧頂く中で数値等は若干変化するかも知りませんので、あくまでも「概略速報値」ということをご理解願います。

- ①八戸港の津波は16:00頃から始まり、17:00頃の第二波が最大で「約4.6m」を観測
- ②津波は引き波から始まり、約60分間隔で来襲した
- ③第三波以降は「欠測」となり、データが全く残っていなかったため不明
- ④むつ小川原港の津波は16:00より少し前から始まり、第一波が最大で「約3.5m」
- ⑤八戸港同様に引き波から始まるが、20～30分周期で小刻みに来襲したのが特徴

■検潮記録は防波堤に囲まれた港内の検潮所において、導水管を通じて出入りする海水の水面変動を浮き（フロート）の高さを観測することで数値化するシステムのため、導水管と海水の摩擦により小さめに出る場合もあるようです。防波堤の有無や地形など、実際の津波の高さは場所により変わりますので、ご注意下さい。

注)「津波の高さ」解説は次項

< 問い合わせ先 >

国土交通省東北地方整備局

八戸港湾・空港整備事務所

住所：八戸市沼館4丁目3番19号

電話：0178-22-9391（代）

港湾保安調査官

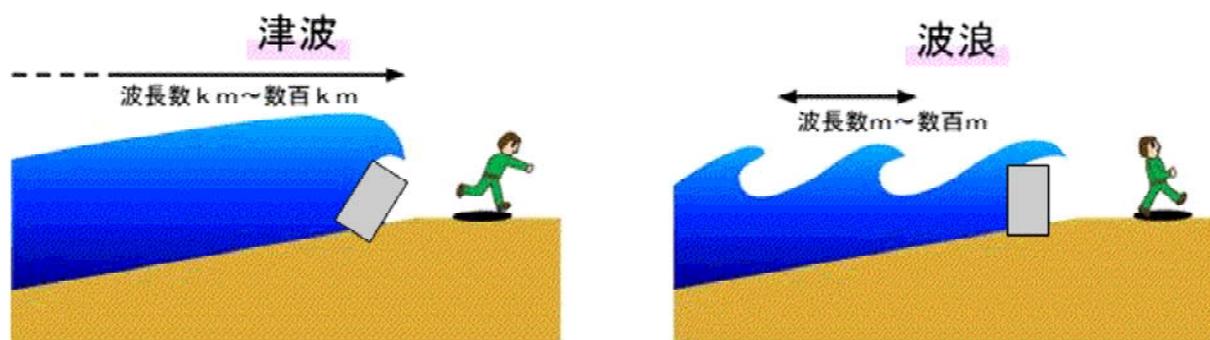
滝沢 洋一

（たきさわ よういち）

<参考資料>

津波の高さについて (気象庁ホームページより転載)

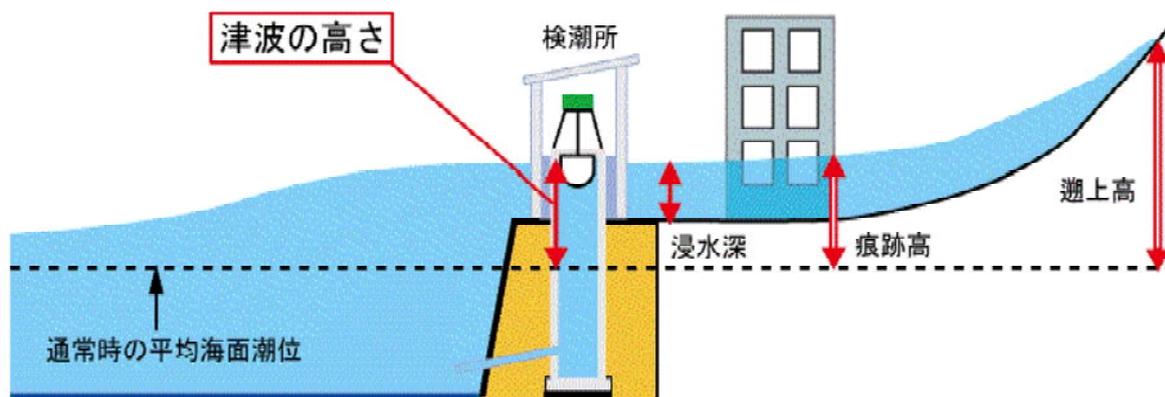
(1) 津波と波浪の違い



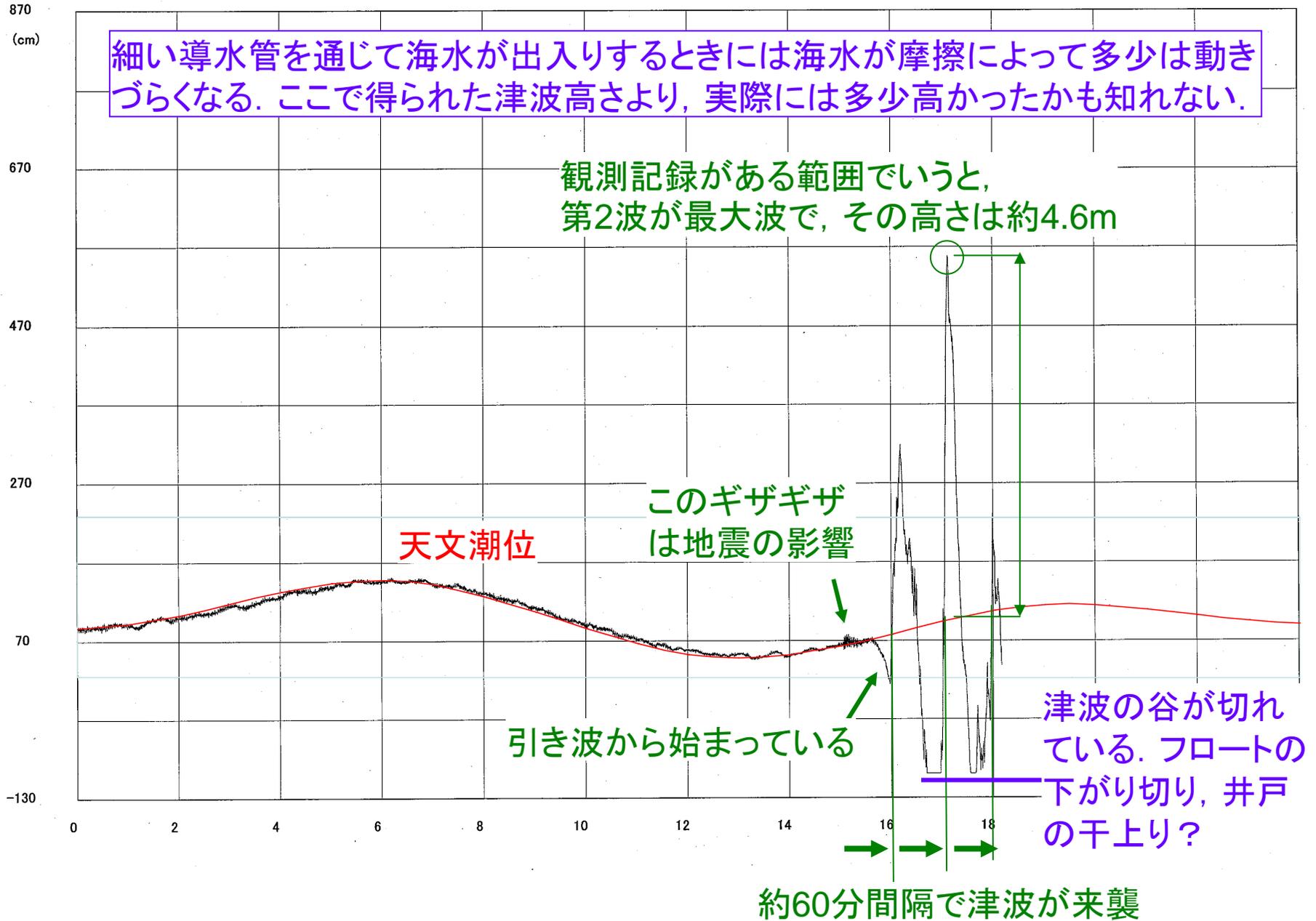
巨大な水の壁となって長時間力が加わる
津波は、陸上のものを破壊しながら内陸
まで一気に浸水する。

津波と高さが同じでも、波浪は波長が短い
ため一つ一つの波により加わる力は小さく
沿岸で砕け散る。

(2) 検潮記録=津波の高さとは (浸水深、痕跡高、遡上高、との相違点)



通常の「波浪」の波の高さは、波の谷から山までの振幅のことをいいます。
しかし「津波」の場合は静水面からの高さをいい、海面の盛り上がりを表します。



表示時刻 2011/03/11 00:00:00 - 2011/03/11 23:59:54

